

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループ（第23回）-議事要旨

日時：平成27年11月25日（水曜日）13時00分～15時00分

場所：経済産業省別本館17階第1特別会議室

出席者

ワーキンググループ委員

増田委員長、新野委員、伊藤委員、崎田委員、高橋委員（※「高」は「はしごだか」）、辰巳委員、朽山委員、伴委員、山崎委員、吉田委員

経済産業省

多田電力・ガス事業部長・浦上原子力政策課長・畠山電力・ガス事業部政策課長・小林放射性廃棄物対策課長

オブザーバー

近藤原子力発電環境整備機構理事長、西塔原子力発電環境整備機構専務理事、中井電気事業連合会最終処分推進本部長代理

議題

基本方針改定後の対話活動等の取組状況と今後の方向性について

議事要旨

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）から、資料1について説明。

西塔原子力発電環境整備機構専務理事から、資料2について説明。

委員からの御意見

全国シンポジウムに登壇者として参加し、処分地に求められる適性など説明。地下深部の固有の性質として安全に隔離する性質があるということなどはある程度理解いただけたと思う。

地層処分技術ワーキンググループについては、科学界における認識共有のために、今までの検討の成果の整理を行うとともに、学会などを通じた情報提供を行いたい。先般、原子力委員会において報告を実施したが、データの充実を含めて、専門的な意見を広く求めていくことが重要など指摘をいただいている。同時に一般の国民にわかりやすいコンテンツも用意したい。また、沿岸海底下での処分については、国民の関心も高いと考えており、現在の知見や技術開発課題の整理が重要と考えている。

委員からの御意見

今後、最終処分の問題を自分事として考えていただけるように、多くの方に地域で開いている勉強会に参加いただくことが重要。

ワークショップでは、一方的な政策紹介に終わらず、質疑応答や意見交換をもとにした対話の場にすることが重要。また、多様なご意見をいただけるように地域の方の率直な意見を発言いただけるような場を作るよう心がけている。

ワークショップなど行っていると、最終処分のような課題が社会にあるということ自体を知らない方も多く、情報提供や学びあいの場の継続を望む意見が多い。

地域の将来を考える上で、将来的に調査に入った際に、地域対話の場を作るなどは、地域の方にとって重要な関心事項。

最終処分の問題を検討していく上で、社会的な事象については両極端の意見をお持ちの方が多く、細部まで決めきるといふより、柔軟性を持って進めていくということでも良いのではないかと。

委員からの御意見

処分事業を進めていく上で、国民一人一人が最終処分の問題を自分のこととして考えていくことが大事。そのためには、廃棄物の話に加えて、原子力などのエネルギーに関する内容も説明していくことが重要。

委員からの御意見

シンポジウムやワークショップに参加したが、どういう地域の地質が良いのかということについて関心が高いという感想を抱いた。これは、今後の地域の方とのコミュニケーションの情報の一つになると感じた。

沿岸地域など関心が高いと感じており、沿岸の情報整備などは今後必要と考える。

委員からの御意見

沿岸海底下での処分について、一般の方にとっては、「坑道が長くなるのでは」、「活断層調査をどのようにやるのか」など疑問を抱く方もいると思う。今後わかりやすい形で説明していただけるとありがたい。

NUMOについては、地域共生活動、社会・経済影響調査や対話の場などが資料の上では以前から検討が進んでいないように見える。現在の進捗を伺いたい。

委員からの御意見

科学的有望地については、地層処分自体を知っていただきたいという意味で検討を進めてきているのだが、「どうして適地か」というより、「どこが適地か」という方向に話が行きがちである。地層処分とは、国民全体のリスクを減らすために実施しているものであり、廃棄物の押し付け合いというような話にならない様に進めていくことが重要。

委員からの御意見

今回は、技術に関するシンポジウムを進めてきたところだが、今後は社会科学も含めて説明できるように、継続して進めていくことが重要。

ワークショップなどでの対話が長く続くと、マンネリ化していくことや、一方、新規の方がついていけなくなるなど問題が出てくる。継続的な取組となるように、ニーズの把握やメニューの用意など工夫をすることが必要。

委員からの御意見

自治体が勉強会に出る事に対して、地層処分に関心があると市民に思われると困るなどの理由で参加しづらいなどの意見も多い。いろんな方に情報を提供できるようにすることが重要。

委員からの御意見

科学的有望地の要件・基準に関する社会科学的観点の扱い方や、地層処分技術ワーキンググループにおける検討の整理や精緻化などを進めることは、今後の方向性としては良いと思う。

少人数ワークショップなどの対話活動や本ワーキンググループでの議論などを通じて、社会科学的観点からの検討も進めていけると良い。マッピングについては、スケジュールをいつまでというより、どのような段階を踏んで提示ができるのかというイメージを共有しておく必要があるのではないか。

委員からの御意見

全国シンポジウムについて、前回より質疑応答の時間を多めに確保したことを評価。今後も広く国民に届くようにたゆまず繰り返していくことが重要。

社会科学的観点からの検討は重要であり、シンポジウムなども活用し、広く国民の声を聞ける形で検討を進めていくことが必要。

多くの国民は、自分たちが使用している電気がどこから来ているかは余り考えずに使用してきた。今後自由化の中では、国民が電気を選ぶときに色んなことを考えることが重要。

委員からの御意見

全国シンポジウムについては、会場から出た意見も公平にまとめており、丁寧に回答してたことから全体として良く運営できていたと思う。

地層処分技術ワーキンググループの原子力委員会への報告において、「関係機関等から十分なデータを集めることが重要」との指摘をいただいたとのことであるが、今後、既存のデータの収集を行っていくのか、あるいは追加的にデータ収集を行っていくのか。

放射性廃棄物・地層処分技術の両ワーキンググループでの議論についても説明していけば一層関心が高まるのではないか。また、今後の段階的調査以降のプロセスの話などもお伝えできると良い。

西塔原子力発電環境整備機構専務理事

地域共生については、事業による経済的な波及効果やまちづくりプラン策定の支援など検討が積み重ねられているが、過去の検討の整理や不足を補うよう引き続き検討を進めているところ。

社会・経済影響調査については、具体的な項目や内容を整理し、具体的な分析や地域との対話の場を通じたプロセスなどを検討しており、最終的には幾つかの典型的な市町村の姿を想定して、検討結果について提示できればと思う。

対話の場については、NUMOの中で原案を作成している段階であり、整理できた段階で説明をしたい。

委員からの御意見

立地地域における意見調整や場合によっては住民投票など行政も含めた様々なコストが発生する事に加え、地域の方の学習や議論など経済的な影響が生じる。社会・経済影響調査については、政治的な事項も含めた検討が必要と思う。

小林放射性廃棄物対策課長

シンポジウムのアンケートについては、今回紹介した以外にも、「どういうきっかけで参加したか」、「今後似たようなイベントがあった場合に参加をしたいと思いますか」なども聞いている。アンケート結果については、今後分析の上ご提示していきたい。

原子力委員会からの指摘で関係機関等の十分なデータを集めることが重要と指摘を受けたことについては、地層処分技術ワーキンググループで検討してきているが、関係機関にも意見を伺うことでデータの精緻化を進めていけるのではないかと趣旨と理解。

いただいた意見を含め次回以降進め方を検討していきたい。

増田委員長

全国にてシンポジウムなどを進めてきて、誠実に進捗してきている。ただ、国民に理解を求めるには時間がかかることから、一步一步着実に進めていく必要がある。

科学的有望地の提示のための社会科学的観点の扱いなど今後議論を進めていきたい。

以上

文責：事務局（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課）

関連リンク

[総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループの開催状況](#)

[動画1（YouTubeへリンクします。）](#) 

[動画2（YouTubeへリンクします。）](#) 

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

最終更新日：2016年1月26日